

令和3年3月9日（火曜日）

インフラ 整備水準引き上げを 足立氏参院予算委で質疑

自民党の足立敏之参院議員が8日の参院院予算委員会で公共投資の必要性について質問した。「日本のインフラ整備を充実させていくには、長期計画に基づき計画的な投資をしっかりと行う必要がある」と指摘し、建設国債の活用を求めた。

これに対し、菅義偉首相は「インフラは地域の生活や経済を支えるために大きな役割を果たしている。引き

続き、計画的にインフラの整備をしっかりと推進していきたい」との考えを示した。

足立議員は高速道路や港湾、空港の整備が韓国と比べて遅れている状況を説明し、「日本はこの20年間でインフラ投資が半減したが、韓国は2・7倍に増やしている。その違いがインフラの整備水準の差につながった」と指摘した。「経済で

一流を目指すなら、インフラの整備水準も先進国並みに引き上げていく必要がある」と訴えた。

麻生太郎財務相は「残念ながら事実だ」と足立議員の指摘を認めた上で、「生産性向上のためにもインフラを整備しなければならぬ」と応じた。

東日本大震災から10年を迎え、足立議員は「震災の記憶が薄らいできているのではないか」と懸念を示した。産学官民が連携し震災の記憶と教訓を伝える「3・11伝承ロード」の取り組みを挙げながら、「地域に根差した活動を国として支えていくことが大事だ」と述べた。

これに対し、赤羽一嘉国土交通相は「被災者の思いにかなう真の復興に向け対応していきたい」と決意を表明した。